

留学コンセプトブック

SEE THE WORLD

VOL. 6

「世界とつながりたい高校生へ」



CONTENTS

留学体験FILE
国際交流プログラムに
参加しました！
Interview with
Professionals
留学について学ぼう



「世界」は人生を広げる

0.25%

これ、何の数字か分かりますか？

正解は「地球の中の、日本の面積」です。

皆さんは、地球の中のたった 0.25% の日本で、
毎日一生懸命笑ったり、泣いたりして生きています。

この広い世界には、皆さんが暮らしている社会の
何百倍もドキドキすることやワクワクすることが溢れています。

世界に出てみて、自分の心が躍る場所を見つけたら、
そこで生きてみるのもいい。

世界に出てみて、自分の輝ける場所が日本にあると思ったら、
日本で思いっきり楽しめばいい。

グローバルに生きるということは、日本にいても海外にいても、
自分とは異なる価値観や考えをもつ人とも

柔軟に向き合い、心を開き、共存するということではないでしょうか。

それはまさに世界と繋がって生きる力をもっているかどうか。

世界と繋がることで、人生の選択肢は大きく広がります。

自分らしく、自分がここだと思える場所を見つけるために
世界へと飛び出してもらいたい。

私達はそんな皆さんのこれからの人生を全力で応援します。

広島県教育委員会

なかやまきんに君流

海外に飛び立つための7カ条

テレビやハリウッドなどのオーディションを受けて海外のエンターテインメントの分野で活躍することが目標、今後も引き続き挑戦していきたい！海外でも「パワー！」を流行らせたい！

筋肉留学は終わっていない！
まだ続いている！



1 根拠のない自信・自分を信じる！

うまくいく！ という根拠のない自信があって、常に自分を信じていた。筋肉留学を決意し、その時期、その時にしかできないことをしようと思ってアメリカへの大学進学を決めた。自分を信じて進んだからこそ、留学の経験が今の仕事に生きている！

2 大変でも自分でやると決めたことは頑張る！

アメリカの大学での生活は、朝6時に起床、登校、授業後も図書館で勉強。一日の睡眠時間は3時間。そんな過酷なスケジュールでも、決めたことをやるんだという気持ちで乗り越えられた。モチベーションを保つのは大変だったけど、自分を信じて頑張った！

3 ワクワク7割・不安3割 不安はあっていい！

その瞬間にしかできないことがある。もちろん楽しいことばかりではない、不安があってもいい。不安があるからこそ、準備や勉強、海外での生活に注意しようという行動につながる。不安があるから諦めるのではなく、ワクワクと不安の両方を大切に、挑戦してほしい！

4 日本のことをある程度話せるように！

海外に行くと自分が日本のことについて知らないことが多いことに気づく。日本の人口や観光地や自分の町、アニメなど、自分の興味のある分野を英語で紹介できるようにしてほしい。海外での初めのコミュニケーションは日本を紹介すること！挨拶程度でも日本を話せるようにしてほしい。

5 自分を見つめなおす時間を大切に！

留学中は一人の時間が多いと思う。そこで改めて自分を見つめなおす時間にしてほしい。世界の現状や、異文化に触れながら、海外から日本を見つめながら考える、留学ならではの経験。日本で経験する孤独とは違う。そういった時間があることも留学の醍醐味！

6 興味のあるもので英語を学ぶこと！

筋肉留学から4か月目に英語でお笑いライブを行った。翻訳したネタを覚える作業で、「こういう表現にしたい」と考えることはとてもワクワクして、その時の英語はするすると頭に入ってきた。教科書で何となく学んだことは忘れがち、自分の興味のあることを英語で話すことこそ英語が身につく近道だと思う。

7 いろんな人の考えや文化を学ぶこと！

留学をすることで、いろんな人がいて、様々な意見があることを実感した。留学先のアメリカは個人主義で意見をはっきり言える、日本は協調性を重んじて周りに合わせる、どちらが良い悪いではなく、それぞれの文化に良さがある。様々な文化を知った上で、自分で調整し取り入れていける人がこれから大切になる。多様な考え方があることを知れるのが留学の醍醐味。

高校生への
メッセージ

迷っていたら挑戦してほしい！ 若いうちにいろんな経験をすることは人生の財産になる。それが留学でなくてもいい。何かに挑戦してほしい。
留学で迷っていたら、大きな目標でなくてもいい、2週間でも1か月でも迷ったらまずは挑戦してほしい。

なかやまきんに君
Nakayama Kinniku

1978年9月17日生まれ、福岡県出身。タレント養成所 NSC 大阪校 22期生で、2000年にピン芸人としてデビューした後、吉本新喜劇に入団。2003年に「ABC お笑い新人グランプリ」審査員特別賞を受賞したほか、「R-1ぐらんぷり 2006」ファイナリストとしても知られ、お笑いジャンルのみならずスポーツ系の番組出演でも人気を博す。2006年、米国「筋肉留学」でサンタモニカカレッジ卒業（運動生理学）、現在は、ボディビルダーとしても活躍中。

NEW ZEALAND



ルームメイトとの写真(後列右から5人目が辻さん)

憧れの海外生活への挑戦

PROFILE

広島県立廿日市高等学校

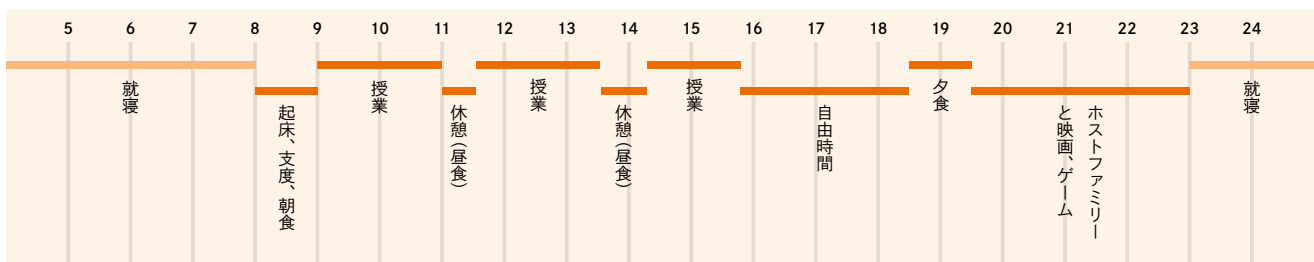
辻 華和子さん

学校がニュージーランドの姉妹校への短期留学プログラム参加者を募集していたため、思い切って応募。憧れの海外生活に一歩足を踏み入れました。

留学地域 ニュージーランド、ニュープリマス 期間 令和5年1月19日～令和5年4月20日

参加費用 150万円、助成金 30万円 学校 spotswoodcollege プログラム 姉妹校への短期派遣プログラム

●一日の過ごし方





ルームメイトやホストファミリーとの様子

留学に興味を持ったきっかけ

SNSでニュージーランドでの、一日の始まりにビーチに行き、仕事終わりは友達と集まってカフェで過ごす、というような日本とは違う生活スタイルをしている日本人女性の動画を見て、海外生活に強い憧れを持ちました。コロナが明けて、ちょうど学校からニュージーランドの姉妹校に行ける短期留学の案内があり、これは行くしかないと思い応募しました。現地では、放課後に街に行ってカフェしたり、ショッピングをしたりでき憧れ通りのキラキラした毎日が過ごせました。

留学先でのコミュニケーション

私は留学先では「積極的に自分から話しかけること」を意識して生活していました。そのおかげか、学校にはたくさんの友達ができ、どのクラスルームに行っても、授業に追いつけなくて困った時には助けてくれる人がいました。無愛想に見えた人でも、こちらが笑顔で話しかければ、大抵の人が笑顔で返してくれて、その後話しかけてくれることも多々ありました。また、世界各国からの留学生がいたので、積極的に交流を行い、ニュージーランド以外の文化についても学ぶことができました。

留学前の語学力・語学の勉強法

留学前は英検準2級を持っていました。NHKラジオ英会話と、学校の授業で学習をしていました。個人的に実際の生活で一番役に立ったのが、Instagramの投稿によく見る英語のスラング集です。教科書には載っていないような砕けたフレーズや、メッセージの打ち方が自分が使う時はもちろん、頻繁に使う周りのみんなの言葉やメッセージを理解するのに非常に役に立ちました。

広島県留学助成金制度の活用

広島県からの助成金で、留学費用の一部をまかさないました。

はみ出しコラム

アイスの年間消費量世界一の国



ニュージーランドはなんとアイスの年間消費量が世界一だそうです。確かにビーチに行く途中にアイス、ご飯の後にアイス、サーフィン終わりにアイス、というように一日1回はアイスを食べていた気がします。ほとんどの家にはファミリーサイズのアイスが数種類、更にアイスコーンまで常備してありました。

MESSAGE

留学を考えている人へ

まず始めに、留学を迷っている人がいたら、絶対に行くべきです。私はたった3か月の間でしたが、実際に行くことで学んだ事がたくさんありました。留学を決意するには不安に思うことがいろいろあると思いますが、行ってしまえば優しい人が絶対に助けてくれるし、刺激的な日々が待っています。現地ですべての友達とはその後も交流が続いているので、そういう点でも留学に行っても後悔はしていません。

CANADA



自転車でキャンプに行ったときの写真(左端が田村さん)

多様性の国カナダへの留学

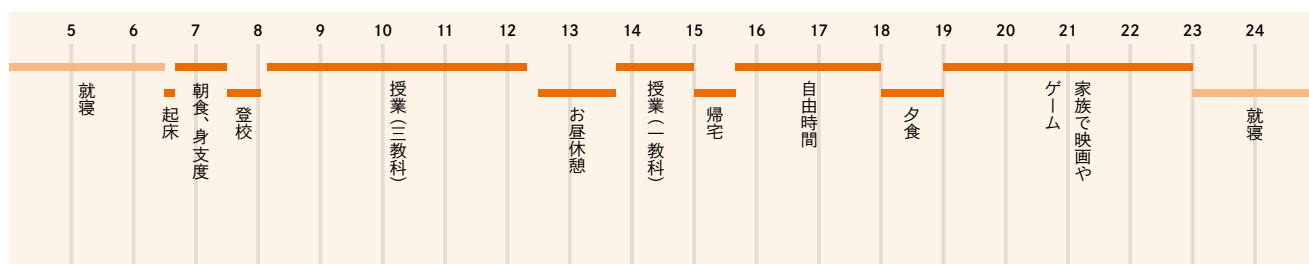
PROFILE

広島県立祇園北高等学校
田村 果音さん

中学から学び始めた英語をきっかけに外国語や海外の生活に惹かれるようになり、高校1年時に Stanford e-Hiroshima に参加し海外の教育にも興味を持つようになりました。また、日本の集団行動を重視する文化や教育に疑問を持ち、多様性の豊かな文化圏でホストファミリーと暮らし、現地の高校に通ってみたいという思いが芽生え、移民が多く LGBTQ などのアイデンティティにも多様性が見られるカナダへの長期留学を決意しました。

留学地域 カナダ・ケベック州・モントリオール 期間 令和4年8月27日～令和5年7月9日
参加費用 145万円、助成金30万円 学校 cole secondaire Louis-Riel プログラム AFS年間派遣プログラム

●一日の過ごし方





[左端から順番に] ホストマザーの誕生日プランチの様子、他の国の留学生と街のナイトフェスティバルに行ったとき、日本のお祭りに友達とボランティアした時の様子

留学先でのコミュニケーション

実はカナダには英語圏とフランス語圏があり、珍しいことに私はフランス語圏であるケベック州に留学していました。

他人と暮らすことも外国語で会話することにも慣れていない上、フランス語も全く話せず、最初の頃の生活は大変でした。でも、「自分はネイティブじゃないのだから間違えて当然というマインドセットで、文法が大間違いでも、英語と混ぜていても話し続けました。そのおかげでファミリーも友達もフランス語を学ぶ私をサポートしてくれましたし、英語もフランス語も間違えることに上達していったと思います。

また、現地の人や他の国から来た留学生と話していく中で、疑問に思った事がある時は積極的に質問するべきだと学びました。日本では質問することをためらう人が多いのですが、異文化の中で生活していると理解できないことが沢山あります。みんなが何の話をしているか分からない時や現地の人との挨拶の仕方など、日常で疑問に思ったことはすぐに現地の人に聞くようにしていました。周りの人も私が何に戸惑っているのか分からないからです。それに、質問することで会話が広がったり、日本の文化についても話せる機会が出来たりして、私は臆することなく質問したことが現地の人と仲良くなれた理由の一つだと思っています。

体験した多様性

私が住んでいたモンクトリオールはとても多様性にあふれた街で外国にルーツを持つ人がほとんどでした。現に私の通っていた学校ではケベックと呼ばれるフランス系カナダ人は学年に十数人しかおらずアルジェリア、モロッコ、ハイチ、ルーマニアなど様々な国のルーツをもつ人

がほとんどでした。黒人、イスラム教徒、トランスジェンダーなど様々なアイデンティティを持つ友人達と交流していく中で他人の考えを尊重することの大切さを身をもって学ぶことができました。家庭内でも多様性を感じることは沢山ありました。例えば、ネイルは女性のすることだという概念がありますが、男の子でもネイルをしたいと言えば否定しない等、性別的なイメージや社会的な概念にこだわらず子どもの個性を伸ばすホストファミリーだったので、そのような家庭で過ごすうちに、自分も自分の意見を持ち発言するようになりました。また、自分が苦手だと思う事もこれが「私だと受け入れるようになり、様々な面で本当の自分のことを知ることができたと思います。

留学の楽しさ

私がつと多くの人に知ってほしいことは留学を通して成長していきることの楽しさです。留学と聞いたときにプロムやパーティーなどキラキラした生活を留学の楽しみだと思う人がほとんどだと思いますが、初めてフランス語で課題を提出した時や友達や家族との会話に混ざって発言できた時など、どんなに小さい事でも日常の中で自分の成長を感じた時の喜びや達成感は留学した本人にしか味わえないもので、それが留学の本当の魅力だと私は思います。

留学経験を通して広がった可能性

私はこの留学に行く前は海外へ行ったことがなく、自分の生まれ育った街の事しか知りませんでした。そんな中、一人で見知らぬ国に行き、日本人が周りにいない環境で友達ができたりや他人だったホストファミリーと本当の家族のようになれたこと、辛いときを乗り越えられたことや知らなかった自分を見つけたことなど、

留学で得たすべての経験から異国の地でも私は大切な人達や思い出ができ、生活していけると分かり、自分の中の可能性が大きくなったように感じました。今後も世界の色々な場所に行つて、様々な人や文化に出会い世界のことをより深く知りたいと思っています。

広島県留学助成金制度の活用

私は広島県留学助成金制度を活用しました。長期の留学はどうしても費用が高くなるので、返済の必要がないこの制度は海外留学を行う上での助けとなりました。3か月以上の渡航から応募でき、選考試験等も必要ないため、留学を考えている人は是非、この制度の利用も考えてみてください。

MESSAGE 留学を考えている人へ

最近では日本にいてもオンラインや留学生との交流を通して異文化交流ができる機会が沢山あります。それはもちろんとても良いことですが、実際に現地で暮らしてみないと分からない事がたくさんあります。特に、長期留学だと、海外に暮らす人たちと交流するだけでなく、より深い仲になれたり、新しい文化や価値観に触れることで日本と留学先の国に対する見方や自分の今後の人生に関する考え方が大きく変わったりすることもあります。怖気づいてしまう気持ちもよく分かりますが、人生を変えるような素晴らしい経験になると思うので、是非一歩踏み出して自分だけの留学体験をしてみたいかがででしょうか。

FINLAND



ホストファミリーとの写真(中央が松室さん)

教育先進国フィンランドへの留学

PROFILE

広島県立広島観智学園高等学校

松室 美胡さん

広島観智学園に入学後、国際バカロレア (IB) のカリキュラムを通じて教育への興味に火がつけました。なぜ地域ごとに教育の特色が異なるのか疑問を持ち、その中でも教育先進国として知られるフィンランドの教育現場を見たいと思うようになりました。高校生のうちに現地でその実態を確かめたいと思い、フィンランドへの長期留学を実現させました。

留学地域 フィンランド・プオランカ

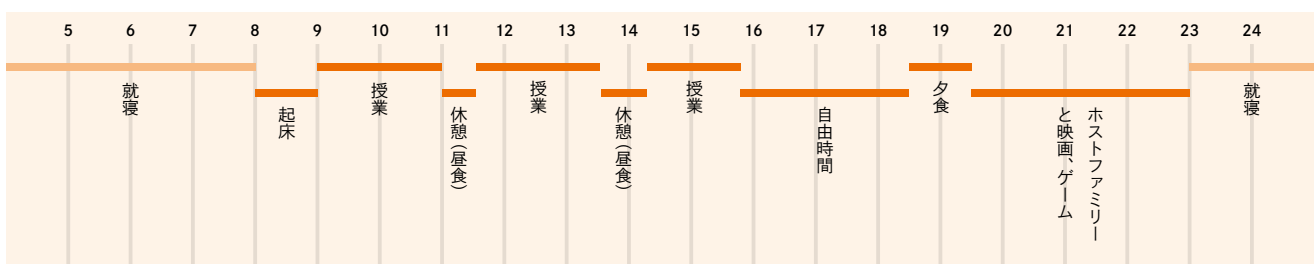
期間 令和4年8月12日～令和5年6月13日

参加費用 145万円、助成金 30万円

学校 Puolangan Lukio

プログラム AFS 年間派遣プログラム

●一日の過ごし方



教育の本質

私は10か月間、ブオランカという人口2000人ほどの小さな町に留学していました。「最先端の教育現場を見たい」という思いを持って留学した私にとって、田舎町の高校は、どこか物足りず、初めの数週間はフィンランド教育の表面的な特徴を必死に探そうとしていた自分がありました。

しかし現地で高校生として学校生活を送る中で、フィンランドが教育先進国と言われている理由は学校の規模感や充実した学習設備だけでなく、日々の授業で垣間見られる教育システムにあると知りました。例えばペーパーレス化されたテストや提出の義務がない課題などはこれまで私が体験してきたものとは大きく異なっていて、非常に興味深い違いでした。

また通っていた高校に併設されている小学校



[左端から順番に] 合唱団、雪景色



で、先生方の手伝いなどを含めた教育実習のようなものをやらせていただきました。生徒一人一人に寄り添い、授業展開を向上させるべく探求を絶やさないう先生方の姿が印象的で、フィンランドという地で将来教育を探求したい、と強く思わせてくれました。

留学を経て変わったこと

フィンランドの人は他人に干渉すぎないところがあるため、留学を経て私自身も人の目を気にすることが減ったように思います。留学前から比較的ポジティブな性格でしたが、より一層物事を前向きに捉え、自分らしく生きようという意識が芽生えました。

また、滞在中は大自然に囲まれた静かな場所でも過ごしていたため、自然と自分と向き合う時間が増えました。自身の感情や決断を大切にすることで、自己理解が深まったと感じています。

留学中は文化や習慣の違い、言語の壁、ホームシックなど、様々な問題に直面しました。当然、ホストファミリーや先生、友人などに支えられました。最終的には自分の力で解決しなければいけないことが多かったです。これを繰り返すことで、壁にぶつかっても自分でできるところまでやってみよう、と積極的に解決しようと試みる姿勢が身につきました。

帰国後振り返って

帰国して早半年。10か月ぶりの日本での年末年始を満喫している中、フィンランドの雪景色を恋しく感じています。滞在中は、日本食や家族を求め、日本への帰国を今か今かと楽しみにしている自分もいました。帰国後は学校での忙しい日々が追われ、またすっかり日本の生活に慣れていました。私は帰国後に学年を下けたため、新しい環境に慣れるのに時間がかかりま

したが、その分余裕ができ、心なしか留学前よりも学業に対するモチベーションが高まったように感じています。

ホストファミリーとは頻りに連絡を取り合っており、2歳下のホストシスターからは毎日のように写真が送られてきます(笑)。そんなホストシスターは帰国から2か月後の夏休み中に、来日し3週間ほど、一緒に日本の夏を楽しみました。滞在中、様々なアクティビティを通じて、「おもてなし」という形で留学中の恩を返せたのはよかったです。また先日ホストファミリーからクリスマスプレゼントが届きました。お返しにどんなものを送ろうか考えながら、今準備を進めているところです。

留学中の思い出BEST3

- ①本場で過ごした特別なクリスマス
フィンランド人にとって、一大イベントのクリスマスは、現地で体験できたのは一生の思い出です。サンタがいる町と知られるロヴァニエミにホストファミリーと一緒に旅行したり、大人や子供問わず、大量のプレゼントをみんなで開封したり、クリスマスシーズンは毎日が特別でした。
- ②ストックホルムへのクルーズ船旅行

出国前からホストファミリーが予約してくれていたクルーズ船旅行は、留学後初めての連休中(秋休み)に行きました。豪華なビュッフェに船からの眺め、都市部での観光等を含め、しつかりリフレッシュすることができた最高の旅でした。

③合唱団で歌った幸せな日々
元々歌を歌うのが好きだったた

MESSAGE 留学を考えている人へ

留学を通じ、私が得た1番の学びは「自らの目で確かめる」ことの大切さです。私は留学中、期待していたこと、思い描いていたものと現実とのギャップに驚かされました。例えば、フィンランドに行く前は、宿題やテストがないと思っていましたが、実際にはあったり、留学生に対して皆関心が高いと期待していましたが、想像以上に反応がクールだったり、と現地に行き、国や文化に対する自身の解釈が変わった点は多くあります。

これらはもし私がフィンランドに留学していなければ、今後も偏見という形で誤認していたかもしれない、ということを踏まえると、この高校生という早い段階で、世界に飛び出し、自身の目で事実を確かめられたことには大きな意味があると思います。

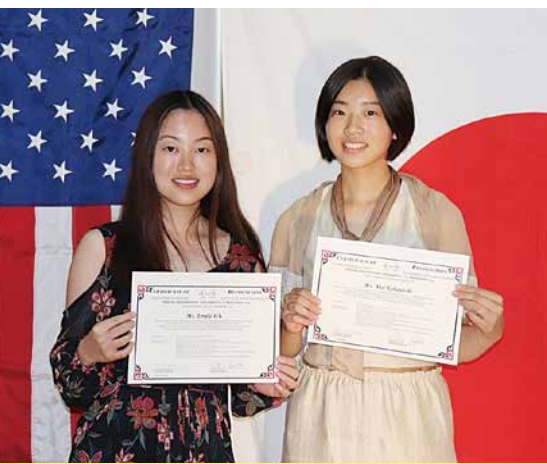
海外留学を考えている人にはぜひ、自分の目で確かめたいこと、知りたいことを現地で探究し、その実態を掴んでいただきたい、と思っています。

め、留学中はホストマザーと一緒に地域の合唱団に所属していました。そこで出会った温かく愉快な仲間たちとフィンランド語の曲を歌った時間は宝物になりました。また絶対に行きたい大好きなコミュニティであり、私の居場所です。

広島県留学助成金制度の活用

留学するに当たり、県の助成金のおかげで、全体費用を抑えることができ、その分を出発前の買い出し等に活用できました。自身の留学を後押ししてくれたこの制度には感謝しています。

長期留学にかかる費用は決して安くありません。留学を検討される際には、お住まいの県や自治体、他団体等が提供している奨学金の利用をお勧めします。



卒業認定書を頂いた時の写真(右側が小林さん)

高校生外交官として 渡米

小林 芽衣さん 広島県立広島国泰寺高等学校

中学生の頃から英語や異文化に興味を持っており、いつか留学したいと考えていた。しかし留学には多額の費用がかかるため、現実的には実行が難しいのではないかと懸念していたところ、新聞で「参加費無料の海外交流プログラム」という広告記事を見つけた。このプログラムに参加して自分の世界を広げたいと思い、応募を決意した。

留学地域 アメリカ合衆国ワシントン D.C.、バージニア州

期間 令和5年7月16日～令和5年8月1日

プログラム AIG 高校生外交官渡米プログラム

●一日の過ごし方

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
就寝		起床・ラジオ体操	朝食・持ち物等の準備		授業	米国文化に関する		昼食・休憩		プレゼンテーション & 意見交流		社会問題に関する ディスカッション		夕食	日本文化の交流会		就寝準備	翌日の予定確認	振り返り	就寝

国際交流プログラム参加への動機

私は以前より、異文化交流に関心を持っていました。例えば日本では謙遜が美德とされ、その気遣いやおもてなしの精神は世界からも称賛されています。一方米国では、自分の意見をはっきり主張しない者は周囲から敬遠されると聞きます。この違いは、その国の価値観や文化によって形成されるものであり、限られた地域のみで生活しては双方の文化を知る機会が乏しく、自分自身の視野も狭まってしまっていると考えています。そこで、米国の高校生と共同生活を送り、異文化交流を体験できるこのプログラムへの参加を決意しました。

合格決定から出発までの語学方向上の準備

現地の高校生と社会問題について英語で議論する企画が予定されていたため、準備期間中、週一回、社会問題に関する動画を視聴し、日本人参加者同士で意見を交わす場が設けられていました。個人としては、放課後に自校のALTの先生と会話するなどして英語に触れる機会を増やすよう努めました。短期間では成長が実感できず、留学中に悔しい思いをすることも多くありました。語彙を増やすことだけに集中するのではなく、言いたいことを既に知っている英単語で表現する力をもっと鍛えるべきだったと思います。

日本の代表として現地プログラムに参加

留学中、日本人参加者が各出身地を代表し

国際交流プログラムへの参加を目指す人への

MESSAGE

国際交流プログラムに参加すると、国境を超えて多くの人と交友関係を築いたり、知らない世界で新たな学びを得ることができます。仮に選考段階で落選したとしても、多くの学びを得られるのが国際交流プログラムの真の魅力だと私は思います。現地で培いたいスキルは何か、自分のどんな個性を活かすことができるか、留学後どんな自分でありたいのか。これらについて考えを巡らせるだけでも、夢は随分と具体的になり、必ずどこかで役に立つと思います。

参加を目指す皆さん、多少のリスクは気にせず、まずは一歩踏み出してみて下さい。応援しております。

て各々の出身地について1分間でPRする機会がありました。私が発表する順番になり「I came from Hiroshima.」と言った瞬間、明らかに他県出身の参加者とは違う目を向けられたのを感じました。後日、平和に関するスピーチを行う機会を頂き、広島で起きたことと私自身が描く平和像について話すと、多くの米国側参加者が質問に答えてくれました。あの時感じた強い視線は、彼らがヒロシマについて正しく理解しようとする姿勢や熱意が表れたものだ、その時思いました。現地では、自分なりの言葉で広島県の魅力や歴史について発信することができたと思います。

「現地」でしか得ることのできない体験

黒瀬 陽音さん 広島県立広島叡智学園高等学校

中学1年生のとき、学校の授業で、アメリカの小学生とヒロシマについての教科書を作り、平和に興味を持ち始めた。広島でG7サミットが開催されたのにも関わらず、サミット開催に際して自主的に活動をしなかった後悔がきっかけとなり、今回のプログラムへの応募を決めた。現在は国際バカロレアディプロマ・プログラム履修中で、海外大学進学を目指している。将来の夢は、平和な社会づくりに貢献することである。

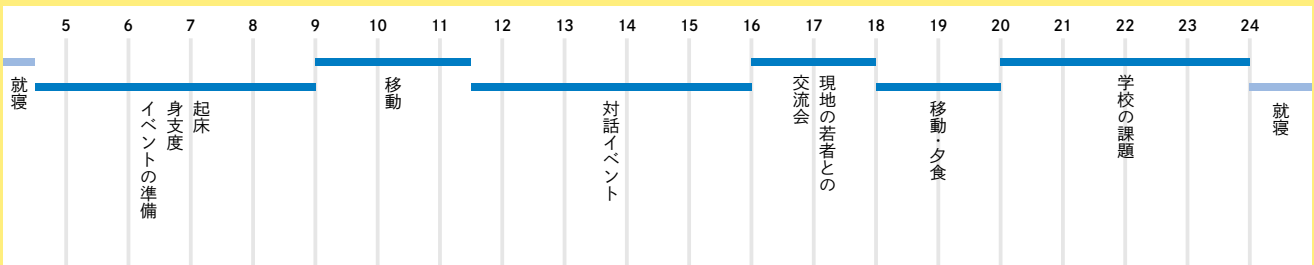


フランスの対話イベントでの集合写真(前列左から2人目が黒瀬さん)

留学地域 イギリス、フランス **期間** 令和5年10月29日～令和5年11月5日

プログラム G7広島サミット レガシー・プロジェクト「若者たちのピース・キャラバン」

●一日の過ごし方(対話イベントの日)



国際交流プログラム参加への動機

「現地」交流に魅力を感じ、プログラムへの応募を決めました。昨今、オンラインでの交流が可能となり、SNSを通じて海外の人とつながることが出来ます。しかし、実際に「現地」に行くことでしか感じられない文化や日本との違いがあると考え応募しました。また、対面で海外の方と交流し、本音で語り合えると考えたのも理由の一つでした。併せて、本プログラムの応募資格が16歳以上27歳以下であったため、様々なバックグラウンドを持つ方々と関われることも魅力でした。交流プログラムへの参加は、海外の方だけではなく、日本全国から集まる同じ強い意志を持った方達とも出会うことができるため、本プログラムは様々な価値観に触れ、世界を多面的に見ることのできる絶好の機会だと考えました。

合格決定から出発までの語学力向上の準備

合格が決定してから出発までの期間はおよそ1か月で、また、派遣決定後は派遣中にある対話イベントでのスピーチ作成などで忙しかったため、あまり語学の面での準備はできませんでした。しかし、やはり派遣前は「ちゃんと私の英語が通じるかな」という不安があったため、日常で使えそうな英語は調べて行きました。学校で使うアカデミックな英語と、普段の会話で使う英語は全然違い、日常会話のための英語は学校であまり教わらないため難しかったです。派遣前は英語力が不安でしたが、終わってみると案外大丈夫だったという印象です。現地の若者と交流した時に「英語上手だね！自信持って！」と言ってもらえて、とても嬉しかったです。

日本の代表として現地プログラムでの取り組み

派遣先では、対話イベントで地球規模課題に関するスピーチを行い、現地の同年代の方とディスカッションを行いました。イベント後には交流会も開催され、建前ではない「本音」の議論を楽しむことができました。このように本音で話すことができるのは、「現地」での交流の強みだと感じました。また、派遣中には現地にある日本大使館を訪問し、日本とイギリス・フランスの関係の観点から公使の方に講義をしていただきました。核兵器廃絶という理想と今の現実のバランスを追求する必要があるという公使のお話がとても印象に残りました。また、多様性の必要性や様々な人と出合い世界を知ることの大切さも教えていただきました。

国際交流プログラムへの参加を目指す人への

MESSAGE

「私なんて…」と思って国際交流プログラムへの参加を躊躇している人がいたら、参加することを強くおすすめします。語学力や学校の課題など不安要素もたくさんあると思いますが、出発してしまえばどうにかになります。私も、学校を休んでしまうことや溜まっているレポートの数を考えて、応募をするかとても迷いましたが、合格決定後も不安でした。実際、派遣中に課題を行うこともありました。しかし、その壁を乗り越えられたら「私やるじゃん！」と思えます。ぜひ自分の可能性を信じてみてください。新しい挑戦でも、自分次第で可能性はいくらでも上げられます。



世界各国からの参加者との写真(左端が望月さん)

地球規模の課題解決に向き合っていく

望月 帆奈さん 広島県立広島叙智学園高等学校

小中学校時代をシンガポールという多民族、多宗教国家で過ごしたことで、自分とは違う視点をもった人々と様々な国際課題について議論することに興味を持つようになった。「一見無理に思える事でもやりたいと思うことは全部チャレンジした方が良い。」という母の教えから、今回のドイツ・イタリア派遣プロジェクトに応募した。

留学地域 ドイツ・ベルリン、イタリア・ミラノ **期間** 令和5年11月29日～令和5年12月7日

プログラム G7広島サミットレガシー・プロジェクト「若者たちのピース・キャラバン」

●一日の過ごし方

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
	就寝			起床・朝食準備	移動	高校訪問 プレゼンテーション	移動	夕食	移動	博物館訪問	移動	大学生との交流イベント	移動	夕食	移動	自由時間	プレゼンテーション練習	翌日の訪問先のリサーチ	学校課題	就寝

国際交流プログラム参加への動機

「若者たちのピース・キャラバン」プロジェクトを知ったきっかけは、私に通っている学校の掲示板でした。募集要項を確認してみると、高い英語力と現地の若者とディスカッション・プレゼンテーションをするコミュニケーション能力が必要とされていて、自分の強みを生かせると考え、応募しました。

合格決定から出発までの語学力向上の準備

シンガポール在住の経験から、英語には自信があったのですが、いざプロジェクトの準備をする中で、被爆の実相を伝える際に、英語で被害者の思いを伝える難しさの壁に当たりました。そのため、合格通知を頂いてから出発までの時間は、どう工夫したら被害者の思いを英語で伝える事ができるのかについて考え、留学生の友達や知り合いと連絡を取り、練習をしました。

日本の代表として現地プログラムでの取り組み

今回のプロジェクトは、現地の高校生と大学生との交流と、ディスカッションがメインのプログラムでした。高校訪問では、まず現地の高校生に原爆被爆の実相について、自分の今までの活動を紹介するプレゼンテーションを行いました。その後、様々な地球規模課題についてのディスカッションを進めていったのですが、ここではお互いにくさんの疑問が生まれました。ディスカッションの中で、現地の高校生の方が「なぜ広島に落とされた原爆は他の兵器と比べて特別なの？」という疑問が生まれた時は、とても驚きました。私は日本人として、原爆はとても特別な物

国際交流プログラムへの参加を目指す人への MESSAGE

少しでもやりたいと思う気持ちがあるなら、とりあえずでも絶対に挑戦してみるべきだと思います。実際に会って交流することでしか得られない経験がたくさんあります。エッセイの提出が必要だったり、倍率がとても高かったり、一見無理だと思ってしまう事もあるかもしれませんが、自分の考えをしっかりと持って、やれることを全部やるという気持ちがあったら絶対に良い方に進んでいくと思います。

で、他の兵器とは全く比べる事ができない物であると考えていました。ですが、彼らからの視点では、原爆は数ある兵器の一部で、広島に落とされた原爆は歴史的出来事の一つだと考えられているのだと思いました。逆に、今起こっているパレスチナ問題が議題になった際には、日本では宗教学教育が盛んでないことから、現地の高校生と比べて、自分のパレスチナ問題への理解が浅かった事をディスカッションを通して気づきました。私は、この様に、考えや価値観の違いを持つことは決して悪いことではないと考えていて、ただ私たちが育った教育文化、また国の中で重要視している部分が違うのだと気づく事ができました。違うからこそ、今回のプログラムの様にお互いに対する疑問を共有し、一緒になって疑問の答えを探して、異なる視点を受け入れあう機会を増やすことが、今後地球規模の課題解決に向き合う上で重要であると学ぶ事ができました。

Interview with Professionals

留学経験を経て、それぞれの現場で活躍する
プロフェッショナルからのメッセージ

大海を観た井の中の蛙、 世界のために働き、 世界とともに生きている



瀬古 素子 Motoko Seko

観啓大学ソーシャルシステムデザイン学部准教授。国連・国際機関職員、JICA 技術協力専門家などの立場で、アジア・アフリカ・欧米の10か国で保健医療分野の政策立案や国際協力プロジェクト運営に従事した後、2021年の観啓大学開学に合わせ帰国。専門は国際保健政策、社会課題へのジェンダー・人権主流化。

留学のきっかけや留学から得たこと

1989～90年にアメリカの高校に交換留学しました。子どもの頃からラジオの英会話講座を聴き続け、大人になったら海外で暮らす夢を持っていましたが、実際に留学したのは、当時の日米政府による高校生交換留学プログラムの奨学生に選ばれたことがきっかけでした。

留学先の南カリフォルニアには様々な国からの移民が多く、通った高校でも生徒の半数は英語が母語でなく、人種・出身国籍ともにとても多様性に富んだ環境。他国から移民や難民としてアメリカに移り住み、第二言語なのに流暢に英語を話し校外で活躍している生徒たちに驚愕したので覚えています。時にはアジア人・日本人への偏見に晒されることもありました。それでも多様な生徒たちを仲間として受け入れることを「普通」とするアメリカ人生徒や教職員に、米国社会の懐の深さや異文化への受容力を感じたものです。異なる背景や思想を持つ人々が集まることで、議論の視野や持ち寄

る経験が豊かになり様々なイノベーション（創造）が起こることを体感する毎日でした。

10代の多感な時期に留学したことで、英語力の向上だけでなく、英語を使うことで世界中の様々な人と繋がり、また自分が知らない世界がどれほど大きいかに気づき、視野が一気に世界へと広がりました。留学中には西ドイツ人留学生とベルリンの壁崩壊のニュースを観たり、メキシコから経済的理由による移住をした同級生家族に料理を習ったり、紛争から逃れたアルメニア人難民友人に過酷な生活の話の話を聞いたりし、毎日が異文化交流そのもので、そのような経験が留学後に国際政策を学び、さらに国家間格差を失くすべく国連勤務を目指すことに繋がりました。またキャリアを極めながら社会貢献に勤むホストマザーに出会い、その後の人生を「日本人だから」「女性だから」という伝統的役割や、日本の「常識」に縛られることなく選り進む強さも得たと思います。そのような経験を経て、開発途上国の保健医療サービスの向上のために国連やJICAで働いてきましたが、その間も多国

籍の人々からなるチームに参加したり率いることに戸惑いもなく、「世界のために働く」という理想を実現できたのは、高校生のときの留学経験が最も大きな原動力です。不安は持ちつつも留学しようと踏み出した16歳の自分を今でも時折褒めたいほど、留学は私の一生を拓いた素晴らしい経験でした。ぜひ皆さんにも経験して欲しいと思います。

グローバル人材が求められる理由や背景

グローバル化が進み、世界のある地域で発生した問題やテクノロジーが国境を簡単に超える時代です。感染症や環境問題など地球規模で丸と丸となって解決に取り組まなくてはならない課題も山積し、経済活動も平和構築も一国だけでは自己完結できないことばかり。このように課題が複雑で難解になるほど、多様な価値観や経験を持つ人々が知見を持ち寄り、違いを認め合いながらも活発に議論をして最適解をとるために創造することが必要とされます。

目標を持って、突き進んだ。 振り返れば、「点と点」が 「線」になっていた。



持田 摩利支 Marishi Mochida

広島市出身。東京大学経済学部を卒業後、三菱商事にて余剰資金の運用や資金調達に従事。三菱商事退職後、ケロッグ経営大学院を経て、現在はワシントンDC近郊にて、Capital One Financial Corporationに勤務。2023年、故郷広島の高校生に早くから留学を経験してほしいとの思いから持田奨学金を立ち上げ、高校生の支援に取り組んでいる。

アメリカでの挑戦の日々

アメリカで仕事を得るのは楽な道のりではありませんでした。2022年6月、大学院を卒業した私はシカゴのアパートの一室で企業に送る履歴書やレターの準備に四苦八苦していました。LinkedInというSNSで200人以上に話を聞かせてくれとメッセージを送り、100社以上に応募。寝る間も惜しんで対策し、最終面接まで進んだ会社からメール一本で落とされた頃から、何時に寝ても毎朝4時に目が覚めるようになりました。広島から応援してくれる両親、渡米前に「絶対仕事を見つかるので」と約束して結婚を認めてもらった妻のご両親に、どうやって謝るか、ということばかり考えていました。数ヶ月苦しんだ末、Congratulations!と合格を告げる電話が来た時は、近くの誰もいない駐車場に駆け込んで、遂にやったぞと絶叫したことを覚えています。

高校生の皆さんに伝えたいこと

海外に出て挑戦する人生は否応がなく、良い時と悪い時の振幅が大きい、エキサイティングな人生になります。これから留学を夢見る広島の高校生の皆さんに、二つお伝えしたいことがあります。

一つ目は、自分の思いの丈を周りに伝えると、意外と世界は自分が思った方向に動いてくれるということです。アメリカで職探しを始めた当初、誰が見ず知らずの、怪しい英語を喋るアジア人の話を聞いてくれるだろうと私は思っていました。しかし、実際に助けを求めてみると、驚く程の割合でアメリカ人や中国人、ブラジル人が返事をして、仕事を得るためのアドバイスと、励ましの言葉をかけてくれました。海外で孤独を感じる場面もあるかもしれませんが、自分の殻に閉じこもらず、躊躇なく周りの助けを求めると良いと思います。

二つ目は、自分の好きなことと得意なことを、仮決めしておくことです。仮決めしてその方向に突き進む内に、しばしば現実が後からついてきます。私は元々英語なんて全く話せず、大学に入るまで海外に出たこともありませんでしたが、自分は英語が得意で、世界中の優秀な人と働きたいと言い続けてきました。それが後に大学で英語サークルに入ったりシンガポールで仕事をする機会に繋がりと、今ではアメリカ企業の本社で、日本人1人の組織で働いています。もちろん、動いた結果、あまり好きでも得意でもなかったと気づくこともあるでしょう。そんな時は、また考え直せば良いのです。一番良くないのは何も仮決めせず、分からないからと言って、周りの人やインターネットの意見に流されることです。皆さんには、自分なりの尺度を持って、これぞ我が人生と胸を張れる生き方をしてもらいたいと思います。

留学について学ぼう



はじめまして。
異文化間協働
活動支援員です。

異文化間協働活動支援員とは

広島県教育委員会事務局学びの革新推進部 高校教育指導課にて海外留学や異文化交流に興味のある県内の高校生のサポートを業務としています。自身の海外経験を生かして、留学に関する個別相談、県立学校の海外姉妹校交流の支援、高校生対象の留学・異文化交流のイベントの企画・運営等情報提供を広く行っています。留学に興味をもったらまずは学び、そして扉を開けてみましょう。

学ぼう



留学には興味があるけど…
具体的にイメージができない!



**A. 今一度、自分の行きたい場所や
やりたいことをしっかりと
見つめ直してみましょう。**

行き先、期間、目的、金額…一言で留学といっても、その内容は様々です。自分の思いを実現できるのは、どんな留学?どんなところで、何がしたい?学校の掲示、本やインターネット等で情報を集め、気になることがあったら問い合わせしてみましょう。

トビタテ!留学 JAPAN 高校生の留学

Q <https://tobitate.mext.go.jp/hs/index.html>

文部科学省トビタテ!留学 JAPAN が、留学の準備ガイドや国別の留学ガイド、留学関連イベントや奨学金の検索エンジン等、留学にまつわる様々な情報を発信しています。



＼ おもな留学方法の一覧 /

種類	特色	期間
民間の留学プログラム	行き先や期間、目的別にプログラムを選べる	短期 長期(3か月～1年程度)
各自治体の留学プログラム	各自治体の姉妹都市等との交換プログラム等がある	短期の場合が多い
姉妹校留学	在籍する学校の海外姉妹校への留学	短期の場合が多い ※長期プログラムをもつ学校もあります
交換留学	(公財) AFS 日本協会 や (公財) YFU 日本国際交流財団等の交換留学団体を通じて長期的にホームステイ等をして現地の学校に通う ※多くの団体では事前に選考試験を行っています	長期(1年程度) ※交換留学団体によっては短期プログラムもあります
その他	目的に合わせ、行き先や期間を自分で決める ※留学エージェント等を利用、もしくは自分で手配します	受入先の状況にもよるが、自分の希望や予算等に応じて自由に考えられる

学ぼう



留学期間中、学校を休まないといけなのが心配



A. 留学中の扱いは在籍している学校によって異なるので、まずは学校の先生に相談してみましょう。

短期の留学を計画している場合は、留学期間中の扱いは学校の判断になりますので、まずは学校に相談しましょう。また、県立学校では、長期留学(概ね1年間)の場合、要件を満たせば留学中の単位を修得単位として認定する制度があります。



行ってみたら
意外となんとかなる!
困難を乗り越えて、
ツブになった自分に
出会えるよ。



留学したいけど、 お金がかかるから、ちょっとなあ…



A. 実際に留学するためにかかる費用や、 助成金等の制度について調べてみましょう。

留学期間や留学先によってプログラムの費用は異なります。各自治体が補助金等で支援するプログラムや、無料の招聘プログラム等もあります。また、留学助成金・奨学金制度もぜひ活用してください。留学を考える時は、自分の行きたい留学にはいくらぐらい、どんなことにお金がかかるのか、使える留学助成制度はないか、自分でしっかり調べてから家族とも話してみましょう。

＼ おもな留学支援制度の一覧 /

種類	対象	金額	返済	特徴	連絡先
広島県教育委員会 留学助成金	● 3か月以上の渡航 ● 県立学校に在籍する生徒	30万円	不要	● 語学・成績要件なし ● 選考試験等なし ● 要校長推薦	広島県教育委員会 高校教育指導課 ☎082-513-4991
広島県教育委員会 留学奨学金	● 2週間以上3か月未満の渡航 もしくは3か月以上の渡航 ● 保護者が県内に住所を有する 高校生等	上限 20万円 (2週間以上3か月未満の場合) 上限 50万円 (3か月以上の場合)	要	● 語学・成績要件なし ● 選考試験等なし ● 要校長推薦 ● 無利息貸付 ● 償還期間最長 10年	
トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム	● 全国の高等学校等の生徒等 (新高校1年生向けコースもあり)	留学先や留学期間により 異なる	不要	● 語学・成績要件なし ● 書類選考・面接あり ● 充実した事前・事後研修	トビタテ! 留学 JAPAN 事務局 公式 HP 参照

奨学金には、所属する教育機関や各自治体が提供するもの、その他日本の各種法人が提供するもの、海外の教育機関が提供するもの、海外の各種法人が提供するものなど、様々な種類があります。お住まいの市町や興味のある教育機関のホームページをチェックして問い合わせることをおすすめします。*質問は在籍の学校宛にお願いします。

2024年3月1日現在



語学力、安全面、ホームステイ… とにかく心配で、一步が踏み出せない



A. 不安要素を1つ1つ消していきましょう。

不安に感じるのは、きっとまだ分からないことや初めてのことが多いから。自分で調べるのは勿論、同じ不安や悩みを乗り越えて渡航した先輩から生の声を聞くことはとても参考になります。どんなに準備していても予想外のことが起こるのが海外ですが、高校生の留学は、留学エージェントや学校の先生、ホストファミリー等たくさんのサポートを得ながら海外生活が送れるチャンスです。色々なことを心配し過ぎるよりも積極性を大切に、チャレンジしてみましょう。

＼ 役立つ留学情報 /

留学情報：広島県教育委員会ホームページ

Q <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/ibunka-suishin/>

広島県教育委員会のホームページには留学を目指す皆さんのために役立つ情報、留学支援制度など幅広く紹介しています。



短期留学プログラム

Q <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/ibunka-suishin/tanki-program.html>

広島県教育委員会では民間事業者等と連携して、短期留学プログラムを案内しています。



留学大図鑑

Q Instagram @ryugaku_daizukan

Q <https://tobitate-mext.jasso.go.jp/zukan/>

文部科学省トビタテ!留学 JAPAN が運営する留学大図鑑では、実際に留学を経験した1,000人以上の先輩たちの情報(行き先・留学の内容・留学先の様子・留学に関する悩みの解決方法等)が掲載されています。その名のとおり図鑑のようになっていて、阿波踊り留学や、イタリアのスーツ職人への弟子入りなど、多種多様な留学体験を眺めているだけでも楽しい!定期的にインスタライブが開催されており、先輩留学生に色々質問することもできます。



外務省海外安全ホームページ

Q <https://www.anzen.mofa.go.jp/study/>

外務省海外安全ホームページでは、国・地域別の治安やテロ、感染症の情報や安全対策情報など、海外渡航・滞在に役立つ情報を公開しています。また、在留届・たびレジに渡航情報を登録することで、留学中に外務省や現地の日本大使館等から最新の安全情報をメールで受け取れるほか、緊急時の連絡、安否確認、支援などが受けられます。



「異文化間協働活動の推進」

広島県教育委員会では、異文化間協働活動を推進していくため、次の活動を行っています！

留学
イベント

ひろしま留学フォーラムの開催

海外留学を希望する県内中・高校生を対象に留学経験者による体験談発表や、ゲストスピーカーによる講演などを行いました。(令和5年10月開催)



留学経験者による発表



ゲストスピーカーによる講演

短期留学
プログラム

豪クイーンズランド州との相互派遣ツアー（毎年開催）

コロナ禍で中止していた、豪クイーンズランド州からの生徒受入、日本からの生徒の派遣ツアーを再開しました。(写真は生徒受入時：令和5年12月)



平和公園にて



お好み焼き体験

この他にも、広島県教育委員会では、異文化間協働活動を推進していくため、次のような取組も行っています！

県立学校姉妹校交流の支援

短期留学プログラムの案内

留学支援制度（留学助成金、留学奨学金）

詳しくは広島県教育委員会のホームページを御確認ください。
(広島県教育委員会ホームページ -異文化間協働活動の推進-)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/ibunka-suishin/>

